平成23年８月８日

各関係機関の長　様

広島県農林水産局長
（農 業 技 術 課）

平成23年度病害虫発生予察情報注意報第１号について（通知）

このことについて，次のとおり発表します。

平成23年度病害虫発生予察情報注意報第１号

平 成 23年 ８ 月 ８ 日
広 島 県 農 林 水 産 局

【 作 物 名 】 水稲

【 病害虫名 】 斑点米カメムシ類（ｱｶｽｼﾞｶｽﾐｶﾒ，ﾎｿﾊﾘｶﾒﾑｼ，ｸﾓﾍﾘｶﾒﾑｼ等）

※アカスジカスミカメ：カスミカメムシ類
※ホソハリカメムシ，クモヘリカメムシ：その他の加害種

１ 適用地域　県内全域

２ 今後予想される発生量　多

３　発生概要及び防除時期

（１） 発生概要

８月上旬調査における，本年の斑点米カメムシ類の発生主体は，アカスジカスミカメを主とするカスミカメムシ類である。

（２）防除時期

ア　発生主体がカスミカメムシ類の場合

出穂期と出穂期～出穂 10 日後の間で合計２回防除を行い，防除時期が遅れないよう注意する。

イ　発生主体がホソハリカメムシ等のその他加害種の場合

出穂７～14 日後の間で合計２回防除を行う。なお，ホソハリカメムシ及びクモヘリカメムシ等の大型の斑点米カメムシ類は，収穫期近くまで加害するので，２回の防除実施後も発生が多く見られる場合には追加防除を行う。

4 根　　拠

（1）　８月上旬の早生品種における出穂後の本田すくい取り調査（133 ほ場）では，アカスジカスミカメ等のカスミカメムシ類が 6.4 頭（平年 3.8 頭）と過去 10 年間で最も多く，ホソハリカメムシ，クモヘリカメムシ等のその他の加害種については，1.6 頭（平年 2.5 頭）で，平年に比べやや少ない発生であった。

　なお，防除を必要とするほ場の割合（要防除密度ほ場率）は 53.4%と過去 10 年間で２番目に高く，過去に注意報を発表した平成 13 年，14 年，16 年及び 17 年と同程度の水準であった（表１）。

（2）　予察灯調査における６月１日から７月 31 日までのアカスジカスミカメの平均累積誘殺数は平年の 4.8 倍の 452 頭で，過去 10 年間で最も多かった（表２）。

（3）　気象予報（広島地方気象台８月５日発表，１か月予報）では，向こう１か月の気温は，高い確率が 50%と予想されており，斑点米カメムシ類の発生に好適である。

5　水稲の生育概況

８月８日現在における，県内各地帯における水稲の生育状況は次のとおりである。
なお，地帯区分については，別紙を参照のこと。
【南　部】（中生種）：出穂約２週間前～穂ばらみ期
【中東部】（早生種）：出穂期～穂ぞろい期，（中生種）：穂ばらみ期
【中西部】（早生種）：穂ぞろい期～乳熟期，（中生種）：穂ばらみ期
【北　部】（早生種）：出穂期～穂ぞろい期

6　留意事項

（1）防除にあたっての留意事項

ア　２等米への格下げ（斑点米混入率 0.1%以上）となる発生量の目安（要防除密度）は，乳熟期のすくい取り調査（20 回振り）でカスミカメムシ類４頭以上，ホソハリカメムシ等その他の加害種で２頭以上捕獲された場合である（表３）。

イ　周辺田に比べ出穂が早いほ場や山際のほ場，また畦畔雑草の管理が不徹底なほ場では，一般的に斑点米カメムシ類の発生が多くなり，被害を受けやすいので，特に注意する。

ウ　８月上旬現在，県中東部における斑点米カメムシ類の発生は，他の地帯に比べやや少ない傾向にあるが，ほ場の立地条件や畦畔雑草の管理状況など，ほ場による発生格差が大きいため，ほ場の見回りを行い，穂ぞろい期防除以降も発生が認められる場合には，追加の防除を行う。

エ　防除にあたっては，農薬使用基準（使用濃度，使用回数，収穫前使用日数等）を遵守するとともに，周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

（2）ほ場管理に係る留意事項

ア　出穂期間際になってからの畦畔等の草刈りは，逆に斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになり，被害を助長させるので，今後，出穂期を迎える中生品種については，出穂２週間前までには草刈りを終え，以降，雑草の穂が出ないように管理する。

イ　ほ場内の出穂したヒエ類は，斑点米カメムシ類の増殖源となるので早期に処分する。

（3）その他

　最新の農薬登録情報は，独立行政法人農林水産消費安全技術センターのホームページ「農薬登録情報提供システム（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）」を参照のこと。

表１　８月上旬における本田すくい取り調査（県内全域）　　（単位：頭／捕虫網 20 回すくい取り）

調 査 区 分	H23	平年	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14	H13
カスミカメムシ類	6.4	3.8	3.6	4.0	3.8	2.0	2.8	3.8	4.9	6.1	2.6	4.1
その他の加害種	1.6	2.5	0.9	0.5	3.3	2.4	1.6	2.4	6.5	2.7	2.4	2.7
要防除ほ場率(%)	53.4	40.6	38.1	27.8	49.5	29.0	26.3	48.4	51.1	55.1	35.6	44.6

（注）網掛けの年は，注意報発表年を示す。

表２　予察灯におけるアカスジカスミカメ累積誘殺頭数（６月１日～７月 31 日）　（単位：頭）

	呉市安浦町	福山市駅家町	庄原市濁川町	平均累積誘殺数
本年	104	89	1,164	452
平年	93	18	173	95
平年比	1.1	5.0	6.7	4.8

（注）過去 10 年間における平均累積誘殺数の最高値は，平成 19 年の 172 頭

表３　本田乳熟期におけるカメムシ類の発生量と斑点米の関係

項目	着色粒混入率	要防除密度の目安（注）	
２等以下への格下げ	0.1%以上	カスミカメムシ類	その他の加害種（ホソハリカメムシ，クモヘリカメムシ等）
		４頭以上	２頭以上

（注）捕虫網による 20 回振りすくい取りによる１か所平均虫数

図１　アカスジカスミカメ
（体長５～６㎜）

図２　ホソハリカメムシ
（体長９～11㎜）

図３　クモヘリカメムシ
（体長 15～17㎜）

上段：カスミカメムシ類による被害粒（黒蝕米）
下段:ホソハリカメムシ等その他加害種による被害粒(標準的斑点米)

図４　斑点米カメムシ類による被害粒（斑点米）

・　市町及びＪＡは，この情報を，生産者団体等関係者へ伝達のこと。
・　詳細は，農業技術課（082-513-3559），各農業技術指導所（西部：082-420-9662，東部：084-921-1311，北部：0824-63-5181），県立総合技術研究所農業技術センター（082-429-0521）へ問い合わせること。　なお，この情報は，広島県ＨＰに掲載している。
（http://www.pref.hiroshima.lg.jp/page/1278478385701/index.html）

（別紙）

水稲病害虫発生予察情報の地帯区分

地帯区分	該　当　市　町
南　部	広島市中区，広島市東区，広島市南区，広島市西区 広島市安佐南区（沼田町，伴東，伴南，伴西，伴北，大塚西，大塚東を除く） 広島市安佐北区（狩留家町，上深川町，深川町，深川，小河原町,倉掛，亀崎，真亀，落合町，落合南町，口田町，口田南町） 広島市安芸区（阿戸町を除く） 広島市佐伯区（湯来町，杉並台を除く） 大竹市 廿日市市（玖島，永原，峠，友田，河津原，津田，浅原，虫所山，飯山，中道，栗栖，吉和を除く） 府中町，海田町，熊野町，坂町 呉市，竹原市，江田島市 東広島市安芸津町 大崎上島町 三原市（久井町，大和町を除く） 尾道市 因島市 福山市 府中市（上下町を除く）
中東部	三原市久井町 世羅町 府中市上下町 神石高原町 三次市（君田町，布野町，作木町を除く） 庄原市（西城町，東城町，口和町，高野町，比和町を除く）
中西部	広島市安佐南区（沼田町，伴東，伴南，伴西，伴北，大塚西，大塚東） 広島市安佐北区（狩留家町，上深川町，深川町，深川，小河原町，倉掛，亀崎，真亀，落合町，落合南町口田町，口田南町を除く） 広島市安芸区阿戸町 広島市佐伯区（湯来町，杉並台） 廿日市市（玖島，永原，峠，友田，河津原，津田，浅原，虫所山，飯山，中道，栗栖） 安芸高田市（美土里町，高宮町を除く） 安芸太田町（穴，坪野，津浪，加計，下筒賀，下殿河内，観音，上筒賀，中筒賀） 東広島市（安芸津町を除く） 三原市大和町
北　部	廿日市市吉和 安芸高田市（美土里町，高宮町） 安芸太田町（穴，坪野，津浪，加計，下筒賀，下殿河内，観音，上筒賀，中筒賀を除く） 北広島町 三次市（君田町，布野町，作木町） 庄原市（西城町，東城町，口和町，高野町，比和町）